

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>賢く 優しく 逞しく</p>	志木市立志木第三小学校
		平成29年度 第10号
		平成30年 1月9日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数1月9日現在595名



本物の大切さ

校長 可知 良之

新年明けましておめでとうございます。年末年始のお休みには、時間をかけて温泉に出かけたり、いつもより少し贅沢をして美味しい物を普段会えない親戚と共に食したりと、今年もお陰様で穏やかなお正月を過ごすことができました。新学期に向けての気力や活力が湧いてくるようです。

今年の年頭に際し思ったことは、「本物の大切さ」です。最近では実際にその場へ行かなくても限りなく本物に近い体験ができる機械（バーチャルリアリティ）というものがあるそうです。ゴーグルのような物を装着することで目から入る立体的な景色に、あたかもその場にいるかのように感じさせられてしまうそうです。さらに風が吹いてきたり、香りがしたりと技術は年々向上していると言います。同じように、本物に近い食感や味を技術で補う代用食品というものがあります。視覚だけでなく聴覚や触覚に嗅覚、味覚といった五感に直接働きかけて本物に触れたことと同じような満足を得る、本物がなかなか手に入れにくくなっているこれからの時代には、必要なことなのかもしれません。

このようなことを考えていましたら、ふと一昨年のある出来事を思い出しました。毎日開け閉めをしている学校の鍵が閉めにくくなり、ある日とうとう閉まらなくなっていました。これは困ったと、すぐに鍵屋さんに鍵穴の調整をしてもらい、鍵はこれまで以上に滑らかにかかるようになりました。鍵屋さんのお話によると、オリジナルの鍵を無くしてしまうと困るのでコピーを作ってもらい普段はそのコピーした方

を使っている人が結構いるようですが、コピーした鍵ばかりを使っていると鍵穴の受ける側のピンが、そちらの形に合わせて少しずつずれてしまうということです。すると、本物の鍵では開かなくなってしまうことが起きるとのことでした。上手に複製するのでコピーした鍵でも開け閉めできるのですが、完全に同じ物ではないのでこのようなことが起きるらしく、知らず知らずのうちに代用品が本物で本物が偽物になってしまう、大変恐ろしいことだと感じた一件でした。

お正月番組の1つに芸能人が高級食材を使つての料理や、一流職人の作った楽器など様々なジャンルで本物とそうでないものを味わい比べて判定する番組がありました。いつも楽しみに見ている番組の1つですが、毎回出演しているある有名なミュージシャンの方は、いつも確実に正解を選んでいきます。今回も迷うことなく次々と正解していくのがとても不思議で、どうして判るのだろうと感じ入りました。日頃から本物に触れ、本物を求めている人だからこそ理屈というよりも感覚的に判ってしまうのかもしれません。

本物には本物ならではの良さがあると思います。触れてみなければ分からないこともあります。子供たちには今年も、できる限り本物の教育に触れ、味わい、確かな力となる基を身に付けてもらいたいと思っています。力強い1年となりますよう本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

